

令和8年度 学校評価報告書（目標設定）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
			具体的な方策	評価の観点
1 教育課程・学習指導	①カリキュラムマネジメントの視点を踏まえ、多様な生徒に弾力的に対応可能な教育課程を編成する。 ②学習意欲の高い生徒に対して、個別に支援できる体制をめざす。 ③言語活動の活性化、協働的な学びを展開し確かな学力を育成する。 ④資格取得の推進に向けた工業科の指導体制を整備し、受検者数及び合格率の向上をめざす。	①学習指導要領に則った指導と評価の計画を作成するとともに、生徒の状況に即した授業展開を実施する。 ②基礎学力の定着や学び直し、進路実現に向けた外部サービスの活用も含めた指導について検討する。 ③一人一台端末を活用した授業を充実させる。 ④各種資格取得の受検・受講者数と合格者・取得者数の増加に向けて、資格の斡旋と取得意識の向上に努める。	①生徒の進路希望や興味関心に幅広く対応できるような教育課程を編成する。3年間を見据えて指導と評価の計画を作成する。 ②基礎学力の確認、学び直し指導の検討、進路実現に向けた外部サービス活用の充実を図る。 ③ICT 機器を活用した授業研究と実践を行い、言語活動や協働的な学びを推進する。 ④資格取得に向けて説明会を開催し、国家資格も含め取得をサポートする。	①生徒の進路希望や興味関心に幅広く対応できるような教育課程を編成できたか。生徒の状況に即した授業展開を実施できたか。 ②個別最適化された学習方法を実施できたか。進路実現に外部サービスの活用ができたか。 ③ICT 機器を活用し、言語活動の充実や協働的な学びを推進できたか。 ④資格試験の受検・受講者数の増加、昨年度と比較して合格者・取得者数が増加したか。資格に絡めたジュニア・マイスターが増加したか。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	①基本的な生活習慣の確立と規範意識を醸成し、他社尊重しながら、自立した行動をとれる力の育成を目指す。 ②生徒の学校への帰属意識を醸成させるため、学校行事の改善及び部活動を活性化させる。	①全職員が共通理解のもと、基本的な生活習慣の定着、規範意識の醸成を図るため継続的に指導を行う。 ① SC や SSW、外部機関との連携等教育相談体制について教職員の理解を深める。 ②部活動の活性化を図り、安全面に配慮した活動や学校行事等にリーダーシップを発揮して行動できる力を育成する。	① 指導方針を共有し、学校行事・学年集会・HR、登下校時・昼休みを中心に学校全体で組織的に指導する。 ① SC・SSW の活用方法や外部機関との連携事例を全職員で共有し、積極的に活用し、一人ひとりに寄り添った適切な支援策を検討できるようにする。 ②顧問総会や部長会を実施し、安全面の配慮に関する知識や実践、行事等でリーダーシップを発揮し行動できるよう支援する。	① 指導方針を共有し、学校行事・学年集会・HR活動、登下校時・昼休み時間を中心に学校全体で組織的に指導できたか。 ① SC・SSW の活用方法や外部機関との連携事例を全職員で共有できたか。SC・SSW・外部機関を活用し一人ひとりに寄り添った適切な支援策を検討できたか。 ②安全面の配慮の知識や実践に関する取組ができ、行事等でリーダーシップを発揮できたか。

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
			具体的な方策	評価の観点
3 進路指導・支援	①キャリア教育実践プログラムに基づき、学校として体系的な進路指導を行い、生徒の進路実現をサポートする。 ②生徒の要望に対応した、進路先（大学、企業）の開拓を着実に進める。	①生徒の進路実現に向け、ICT 機器などを活用しながら効果的な進路ガイダンスや説明会を行っている。 ②各科の職員と密に連携し、関連企業の情報共有を積極的に図る。また進学においても担当者を置き、情報の収集・共有を図る。	①求人・進学情報など電子データ化し、生徒に必要な情報を速やかに提供できる環境を整備する。 ②Handy や進路指導室をさらに活用し求人票や進路情報を迅速に配信する。 ②各科に担当窓口を置き企業との情報交換や連携を広く図り、大学・各種学校とも連携を密にする。	①進路活動を行う生徒全員にデータを端末上で見ることができそうな環境を構築できたか。 ②生徒や教職員の、Handy や進路指導室の利用頻度が増加したか。 ②各科と連携し、企業や学校が希望する科の担当者とは面談を行い、情報を共有し連携ができたか。
4 地域等との協働	①地域と協働・連携することを通して、生徒のコミュニケーション能力を高め、豊かな人間性や他者と協働できる社会人基礎力を育む。	①持続的な地域貢献活動により、生徒が社会の一員として役割を果たす仕組みを構築する。 ①多様な地域活動の実績を積極的かつ多角的に広報し、学校の魅力を発信することで、地域社会と双方向の協働・連携体制を強化する。 ①生徒に地域との協働・連携する意義を理解させ、共生及び安全に対する意識を持たせる。	①部活動、各科の課題研究、清掃活動は、地域住民や関係団体との協働の可能性を常に模索し、積極的に働きかける。 ①生徒の地域活動を HP や Instagram で積極的に「見える化」し、在校生のフォロワー数も拡大する。 ①近隣校との共同活動を積極的に企画・導入し、多くの生徒が参加できるよう、情報を提供する。	①地域のイベント等に積極的に参加し、地域との協働・連携を図ることができたか。 ①学校 HP や Instagram の更新頻度を上げることができたか。フォロワー数が増加したか。 ①地域との協働・連携の意義を生徒に意識付け、その成果を卒業生および保護者に対する振り返りアンケート調査により客観的に評価できたか。
5 学校管理・学校運営	①業務の効率化を図り、職員の働き方改革を推進する。 ②日常的に、事故・不祥事防止に係る研修会を実施し、職員に当事者意識を持たせるように努める。 ③職員の学校運営への参画意識の向上を図る。	①業務効率化のため各業務内容を見直し、担当の負担を軽減し教員の ICT 利用を促進する。 ②事故防止会議を定期的開催し、職員の事故防止についての意識向上を図る。 ③各種研修会や情報交換会などを活用し、職員の学校運営への参画意識向上を図る。	①作業に必要なリストや手順書を整え、確認作業をスムーズにする。 教員の ICT 機器を更新し、使用しやすくする。 ②過去の事故・不祥事の事例を提示し職員一人ひとりが意識して行動する。 ③全職員が当事者意識をもって発言・行動できるよう広く情報を共有する環境を構築する。	①作業手順書、リストが作成されたか。手順書を活用し、作業が進められる状態になっているか。 ②事故不祥事防止会議において深く議論できたか。 ③各種研修会、情報交換会において自分の意見を他人の考え方と比較し共有できたか。